

神田小の誇りは「明るい笑顔」と「元気なあいさつ」：すべては神田の子の「希望をはぐくむために」



学校だより

No. 3 さいたま市立神田小学校

令和4年 5月31日発行 Tel (853) 4377
URL: <http://jinde-e.saitama-city.ed.jp/>

学校教育目標

○人間性豊かで 21世紀を
たくましく生きる神田の子
・かしこく・たくましく・あたたかく

心の傷を癒す薬

校長 米玉利 優子

神田小学校45周年を祝う運動会、前夜の雷雨に、校庭の水取りをしたばかりなのに、少し気落ちしながら空を見上げていました。28日(土)運動会当日、案の定、校庭は湖のようになっていましたが、絶対に運動会を実施したいという思いで教職員が校庭の水取りをしていたところ、「一緒にやってもよいですか。」と声をかけてくださった男性がいました。バケツと雑巾を持った本校の保護者の方でした。1時間以上、一緒に作業をしてくださったのですが、お名前を伺っても、「そんなのいいんです。ただ、今日、運動会がやればいいなと思っただけのことですから。」と・・・聞けば、保護者1名の参観なので、御本人は校庭に入れないのだと笑っていらっしました。申し訳ない思いと有難い気持ちで、胸が熱くなると同時に、「誰かのために行動(考動)できる」保護者がいてくださるこの学校を、そして、この地域を誇りに思いました。27日(金)の下校時、校庭整備をしている教職員に大きな声で「ありがとうございます。」と御礼を言っていた2年生も、きっとこんな素敵な保護者に育てられているのだな、そしていつか素敵な大人へと成長していくのだろうとうれしい気持ちになりました。晴天の下、整備された校庭で実施できた運動会では、子どもたちが全力で取り組む姿が見られました。神田の子の無限の可能性も感じることができました。暑い中、片付け等も積極的にお手伝いしてくださったPTA役員の皆様をはじめ、見守りをしてくださった地域の皆様、防犯ボランティアの皆様にご心から御礼申し上げます。

さて、1年のうちで特に6月は、いじめの認知件数が増加してくる時期ともいわれていることから、さいたま市では、全市的に6月を「いじめ撲滅強化月間」としています。本校においても「さいたま市立神田小学校いじめ防止基本方針」(全文はホームページで公開中)に基づき、様々な活動を行います。教職員も「いじめは、どの学校にも、どのクラスにも、どの児童にも起こり得る。いじめは、人として絶対に許されない。いじめられている子どもを最後まで守り抜く。」という基本姿勢をもち、早期発見、早期対応をまいりますが、御家庭におかれましても、子どもの小さな変化を見逃さず、気になることはどんな些細なことでも、担任や学校へ御相談いただきますようお願いいたします。いじめの起きる原因は、単に友達関係に支障があるだけでなく、思いやりの心が足りなかったり、正・不正の判断がやや不十分であったりと、子どもの内面にある問題が大きいかかわります。ちょっとした一言の重さを認識していないことからいじめに発展することもあります。いじめ撲滅に向けた取組については、子どもたち自身が自分たちの問題として捉え、一人ひとりが真剣に考えられるよう取り組んでまいります。

「頭が痛ければ頭痛薬を飲めるとしょ。お腹が痛くてもお腹に効く薬があるよね。でも、心の傷を治す薬はある？ ないんだよ。心は命と同じくらい大切なもの。だから、絶対に人の心に傷をつけてはいけない。」小学校2年生の時、友達に心ない言葉を言った私に、母は目に涙を浮かべ語ってくれました。今も胸に残っています。「心の傷を治す薬はない。」けれども、もしかすると「心の傷を癒してくれる薬」はあるのではないのでしょうか。皆さんもお気づきの通り、それは「人」です。辛いことを共感してくれた。ちょっとかけてくれたやさしい言葉が心を元気にしてくれた。一緒に悩んでくれた。そんな小さなことでも、傷を負った心には大切な薬になるのではないのでしょうか。傷つけるのも人ならば、傷を癒すのもまた人です。人としてどうあるべきかを考えさせられます。

神田小学校の子どもたちには、「心の傷を癒す薬」をもった人に成長してほしいという願いを強くもち、教職員一丸となって努力してまいります。今月もあたたかい御理解と御協力をよろしく願いいたします。

そういえば、運動会前日、少し気落ちした私にやる気と元気をくれたのは、朝、泥だらけになって一緒に作業してくれたあの保護者の笑顔でした。心の傷を癒す薬を持っていた素敵なあの方に、改めて御礼が伝えたいです。「いつか私もあなたのような人になります。」と。